

RA協議会セッション

F-1 プロジェクトのマネジメント

「異分野融合研究・プロジェクトにおけるURAの役割について考える」

人社系の関わる事例紹介と今後の共創研究に向けて

2020年9月18日

京都大学 学術研究支援室(KURA)

稲石 奈津子

京都大学



異分野融合
学際
文理融合
分野横断
文理共同・協働
文理複眼
学術知共創

1. SPIRITS

2. 学内ユニット

3. 今後に向けて

1. SPIRITS

2. 学内ユニット

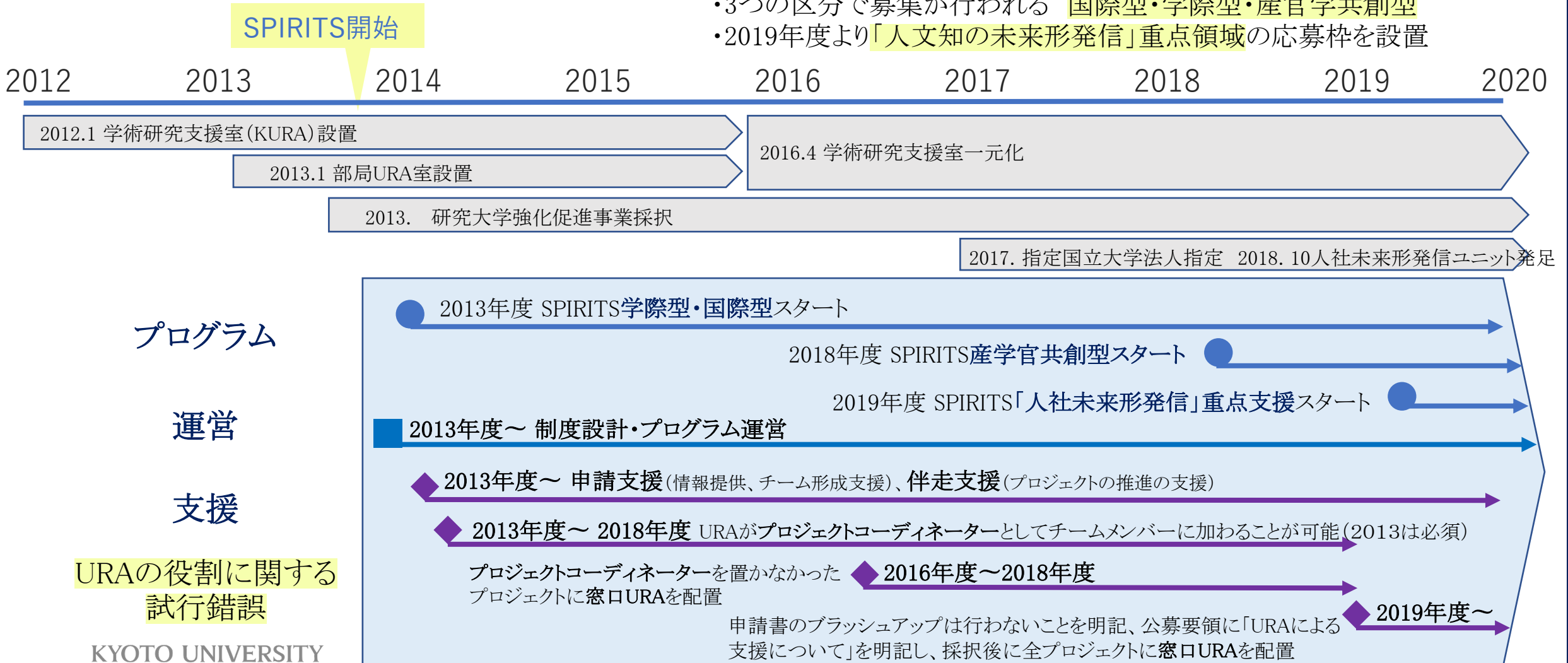
3. 今後に向けて

SPIRITSとURAの役割の変遷

SPIRITSとは？

研究大学強化促進事業の一環として、国際化の推進、未踏領域・未科学への挑戦、イノベーションの創出を加速させるため、学際・国際・人際融合事業「知の越境」融合チーム研究プログラム(SPIRITS: Supporting Program for Interaction-based Initiative Team Studies)を実施。

- ・3つの区分で募集が行われる 国際型・学際型・産官学共創型
- ・2019年度より「人文知の未来形発信」重点領域の応募枠を設置



SPIRITS: 人社系研究を含む学際型の事例

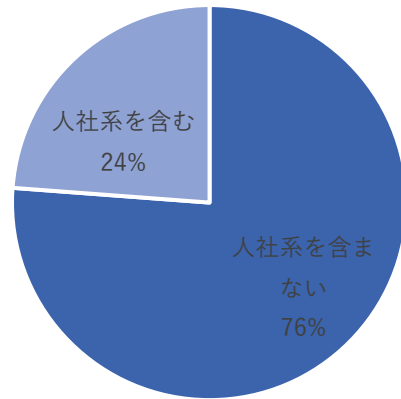
		プロジェクトが設定したキーワード
平成25年度 2013	宇宙における人類の総合的研究	宇宙、歴史、宗教、倫理、政策
	京大宇宙地球科学の黎明期の研究	科学史、研究者系譜、アウトリーチ、国際貢献、社会貢献
	統合創造学の創成ー市民とともに京都からの発信	統合創造学(生物学、複雑系科学、医学、社会学、経済学、看護学、生態学、哲学などの統合)、自己・非自己循環原理、複雑システム
平成26年度 2014	京都大学を拠点とする領域横断型の生命倫理の研究・教育体制の構築	生命倫理学、終末期医療、研究公正、ゲノム編集、臨床倫理
	人類未踏の超高齢社会をデザインする	医療介護システム、公共政策、地域経済、まちづくり、多源的大規模データベース
	「比良おろし」の突風被害予報システムを核とした風害適応型レジリエント・コミュニティ構築	研究成果の社会実装、文理融合、レジリエント・コミュニティ
平成27年度 2015	主体性のあるサービスデザイン: 嚥下食を実現する	サービスデザイン、相互主観性、デザイン学、主体化、人間脱中心設計
平成28年度 2016	将来の宇宙開発に関する道徳的・社会的諸問題の総合的研究	宇宙探査、宇宙開発、宇宙利用、宇宙倫理、ELSI(科学技術の倫理的・法的・社会的含意)
平成29年度 2017	京都の社寺の記録から描く天変地異と人々の対応	地震、オーロラ、太陽、歴史、史料
令和2年度 2020	データ駆動型科学が解き明かす古代インド文献の時空間的特徴	中国哲学、印度哲学および仏教学関連、データベース関連

SPIRITS: 人社系の産官学共創型と「人文知の未来形発信」重点領域の事例

			代表者、プロジェクトが設定した キーワード
産官学共創型 スタート	平成30年度 2018	(産官学共創型) 東映京都撮影所資料を基盤とした日本映画史研究の国際的拠点形成	人間・環境学研究科・木下 千花 アーカイブ、映画メディア産業、映画史、教育 アウトリーチ
人社重点支援 スタート	令和元年度 2019	(人社重点支援・国際型) 人文知的「二重の越境」による産業ダイナミクス研究—アジア産業論発信と新領域確立	経済学研究科・黒澤 隆文 経営学、東アジア、産業
		(人社重点支援・国際型) 冷戦期東アジアにおける学知の広報外交—国際共同研究と複数言語出版	人間・環境学研究科・土屋 由香 地域研究、科学技術、メディア・ジャーナリズム
		(人社重点支援・国際型) イスラーム経済知を活用したポスト資本主義社会創出のための国際研究ネットワーク構築	アジア・アフリカ地域研究研究科・長岡 慎介 地域研究、イスラーム経済
	令和2年度 2020	(人社重点支援・学際型) データ駆動型科学が解き明かす古代インド文献の時空間的特徴	白眉センター／人文科学研究所・天野 恭子 中国哲学、印度哲学および仏教学関連、データ データベース関連
		(人社重点支援・産官学共創型) アジア的人間観から見たサイバー空間における民主主義	公共政策連携研究部・坂出 健 政治経済学、哲学、倫理、サイバーデモクラ シー
		(人社重点支援・産官学共創型) SNS相談事業の社会実装と臨床的效果実証	こころの未来研究センター・畑中 千紘 臨床心理学、SNS
		(人社重点支援・国際型) デジタル化の中での「法」の役割	法学研究科・島田 裕子 社会法学、IoT、AI、プラットフォーム経済
		(人社重点支援・国際型) 教育ビッグデータとAI技術を用いた内省的読解力の向上	学術情報メディアセンター・Rwitajit Majumdar 人文社会情報学、ラーニングアナリティクス、 教育ビッグデータ

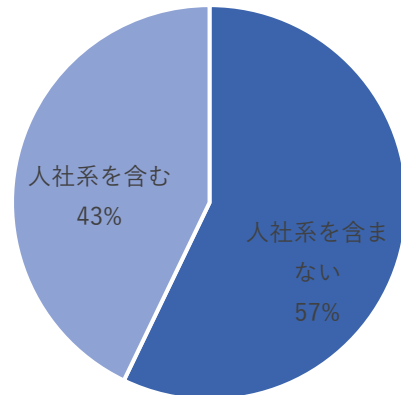
SPIRITSから見る人社系を含む学際研究の傾向

全体の学際採択例に占める
人社系関連課題の割合



42件中 10件
24%

全体の産連採択例に占める
人社系関連課題の割合



7件中 3件
43%

傾向

もともと学際的な学問領域

社会貢献、社会実装、アウトリーチ

ELSI、高齢化社会

データベース、アーカイブ、デジタルヒューマニティーズ

公共政策や経済といった社会科学は言うに及ばず、
人文系に関しては倫理学に限らず結構史学、哲学も

防災・・・京大の特徴？

宇宙関連・・・京大SPIRITSの特徴？

伴走支援例

平成26年度
2014

平成27年度
2015

平成28年度
2016

平成29年度
2017

平成30年度
2018

令和元年度
2019

日本の生命倫理学は
欧米の後塵を拝している。
研究・実践通じて現場に架橋
次世代の人を育てるべし。
→プラットフォーム必要

代表: 児玉聡



人間・環境学研究科
こころの未来研究センター
農学研究科



科研費・基盤研究 (C)

価値共有の認知による信頼関係に基づく
人由来検体・情報のガバナンス体制の構築

科研費・国際共同研究加速基金 国際共同研究強化 (B)

東アジアにおける終末期医療の倫理的・
法的問題に関する国際共同研究

台湾大学、延世大学

法学研究科

立命館大学

ブリストル大学

国立シンガポール大学

モナシュ大学



京都大学国際 シンポジウム

超高齢社会の医療、
終末期医療、
および研究公正

臨床倫理教育セミナー

国際高等研究所研究プロジェクト (国際高等研究所)

領域横断型の生命倫理プラット
フォームの形成に向けて



文学研究科
医学部附属病院
医学研究科
iPS細胞研究所

SPIRITS学際型

京都大学を拠点とする領域横断型の
生命倫理の研究・教育体制の構築



生命倫理学

生病老死の問題
古今東西、文理の知恵

代表: 出口康夫

SPIRITS国際型

「自己」を巡る国際共同研究
・規範チーム「生命倫理学」
リーダー児玉聡

カリフォルニア大学
サンディエゴ校

伴走支援で果たす役割

申請時

研究者紹介(チーム形成時など)
SPIRITSプログラムの趣旨説明
情報提供

支援中

定例会の開催・参加→ニーズの把握
ホームページ作成支援(Web虎の巻の紹介、構成整理、業者の紹介など)
広報支援(情報提供、プレスリリース作成支援、メディアへの紹介)
イベント運営に関する情報提供(スキーム、会場、業者の紹介など)
並行・派生事業の外部資金獲得支援
並行・派生事業に関する研究者紹介
KURAの他事業への紹介、連携(国際、産連、企画、広報、他地区URA)
進捗状況のヒアリング

終了時

成果物作成支援(報告書冊子の作成など)
事業報告書作成支援

終了後

研究者紹介(チーム形成時など)
次期外部資金獲得支援
京大オリジナルの紹介

学際研究のメリット、URAに求められていること

FROM

SPIRITS「人文知の未来形発信」重点領域関連セッション

パネルディスカッション「学際フロンティアSPIRITS」

http://research.kyoto-u.ac.jp/service/topic/spirits/2017-2018_report/

08 | 巻頭特集 / Intro Feature

パネルディスカッション

「学際フロンティア SPIRITS」

山内裕准教授 × 佐藤恵子特任准教授

多くの SPIRITS プロジェクトで、様々な分野の研究者が協働しています。「平成 29 年度採択プロジェクト成果報告会」では、学際研究に関するパネルディスカッションを開催。過去に文理融合プロジェクトを進めたお二人に、ファシリテーターの稲石奈津子リサーチ・アドミニストレーター（URA）が、学際研究を進める上でのポイントや、プロジェクト・マネジャーに求められる資質などについて聞きました。



メリット

学際研究は社会的波及効果のあるものが多い

成果を社会に発信していくなり、あるいは社会に還元するといった部分においては、このような学際的な取り組みが大きな成果となる

プロジェクトからの派生が多く、以降の活動の可能性が広がる

プロジェクトから派生したものが数多くある
今まで自分の研究だけやっていたが、成果発信や国際ネットワークなど色々な可能性が広がった

URAに求められること

学際研究の評価の難しさ

接点のない分野の研究者を繋ぐ機能が欲しい

情報の発信の仕方、市民とのコミュニケーションの取り方
これに関する学内の専門家の紹介

1. SPIRITS

2. 学内ユニット

3. 今後に向けて

ユニットとライトユニット

京都大学

学際融合
教育研究
推進センター

Center for the
Promotion of
Interdisciplinary
Education and
Research

PROJECT

センターの取り組み

専門にとらわれない研究が育まれる環境をつくるために、学際センターでは様々なプロジェクトを実施しています。研究者同士の研鑽を意図したイベントや、新しいユニットが生まれるための場づくり、複雑化する学問の現在を明らかにするリサーチなど、その活動は多岐に渡ります。

FROM

京都大学 学際融合教育研究推進センターWEBサイト

<http://www.cpier.kyoto-u.ac.jp/project/unitssystem/>

KYOTO UNIVERSITY

ユニット制度

専門の枠を超えた研究教育活動を推進

About

本学における専門の枠を超えた研究教育活動を推進するため、学際的なメンバーからなる研究教育グループを”ユニット”と称し、学際センターはその設置承認と制度的補助をしています。

「ユニット」は公式の学内組織として、「ライトユニット」はより柔軟な研究会的なグループとして活動しており、学際センターが伴走のスタンスでともに活動しています。

System

・ユニット

様々な分野の本学教職員から構成される学際的なテーマを持った研究または教育グループ。ユニットメンバーは学内兼任という立場。京都大学の正式な組織として認定され、他大学や企業、海外の組織との正式な契約の締結が可能。ユニットの事務機能はそのユニットメンバーの所属部局が担う。

ユニット設置には、申請書提出の後、学際センター運営委員会の審議が必要。財源の有無は問わず、学際的な研究テーマ、構成員であり、本学の学問の豊かな土壌づくりに貢献するかどうか審査基準。更新あり。2年に一度の中間審査はあるが、センターへの活動報告義務などはなし。現在38ユニットが自由に活動している(2020/4/1現在)。なお、これまでに11ユニットが廃止しており、新陳代謝のある柔軟な制度設計が特徴の一つ。

・ライトユニット

ユニット同様、様々な分野の本学教職員から構成される学際的なテーマを持った研究または教育グループであるが、京都大学の正式組織ではなく、学際センターがライトユニットの呼称を付与した研究会のような位置づけ。ユニット長は有期雇用教職員でも可で、ユニット設置申請も極めて簡素。メンバーも積極的に他大学や他組織から構成され、研究会といった体。

ユニット: 人社系研究を含む学内ユニットの事例

	ユニットが設定した分野	関連部局
Unit	心の先端研究ユニット	[心理学×教育学×医学×情報学×霊長類学]
	地域連携教育研究推進ユニット	[地域研究×教育学×工学]
	統合複雑系科学国際研究ユニット	[経済学×理学×工学×医学]
	レジリエンス実践ユニット	[工学×防災×経済学×政治学]
	超高齢社会デザイン価値創造ユニット	[情報学×医学×工学×経済学]
	高度情報教育基盤ユニット	[情報学×医学×教育学]
	福島復興支援研究連携推進ユニット	[あらゆる分野]
	社会科学統合研究教育ユニット	[経済学×情報学×地域研究×医学]
	熱帯林保全と社会的持続性研究推進ユニット	[環境学×農学×地域研究×文学]

人社系研究分野・部局 学際系研究分野・部局 自然科学系研究分野・部局

	ユニットが設定した分野	関連部局
Unit	活力ある生涯のためのLast5Xイノベーションユニット	[あらゆる分野] 工学研究科、医学研究科、理学研究科、薬学研究科、情報学研究科、 経済学研究科 、再生医科学研究所、生存圏研究所、化学研究所、 防災研究所 、医学部附属病院、医学研究科附属ゲノム医学センター、環境安全保健機構、学際融合教育研究推進センター先端医工学研究ユニット、物質-細胞統合システム拠点、学術情報メディアセンター
	水・エネルギー・災害教育研究 ユネスコチェアユニット	[防災 ×工学×農学×エネルギー科学] 大学院総合生存学館、 防災研究所 、農学研究科、工学研究科、理学研究科、情報学研究科、エネルギー理工学研究所、エネルギー科学研究科、 アフリカ地域研究資料センター 、生態学研究センター、 東南アジア地域研究研究所 、 アジア・アフリカ地域研究研究科 、 経済学研究科 、 教育学研究科 、 地球環境学堂 、医学研究科、 経営管理大学院 、 経済学研究所 、 霊長類研究所 、生存圏研究所
	森里海連環学教育研究ユニット	[生態学×情報学× 社会科学] フィールド科学教育研究センター、 人間・環境学研究科 、 こころの未来研究センター
	政策のための科学ユニット	[社会科学 ×生態学× 経済学 ×理学] 医学研究科、 経済学研究科 、工学研究科、 人間・環境学研究科 、農学研究科、 経営管理大学院 、 高等教育研究開発推進機構 、情報環境機構、 学際融合教育研究推進センター 、 こころの未来研究センター 、 白眉センター 、物質-細胞統合拠点
	人社未来形発信ユニット	[文学 × 経済学 × 地域研究] 文学研究科 、 教育学研究科 、 経済学研究科 、 人間・環境学研究科 、 経営管理研究部 、 人文科学研究所 、 経済研究所 、 東南アジア地域研究研究所 、 こころの未来研究センター
	人工知能研究ユニット	[情報学× 教育学 ×理学] 情報学研究科、 教育学研究科 、薬学研究科、iPS細胞研究所
	ヒマラヤ研究ユニット	[あらゆる分野] 霊長類研究所 、野生動物研究センター、 東南アジア研究所 、 こころの未来研究センター 、 経済研究所 、 防災研究所 、 教育学研究科 、 アジア・アフリカ地域研究研究科 、 地球環境学堂 、工学研究科、理学研究科、農学研究科、医学研究科〈調整中〉

人社系研究分野・部局 学際系研究分野・部局 自然科学系研究分野・部局

		ユニットが設定した分野	関連部局
Unit	スーパーグローバルコース人文社会科学系ユニット	[経済学 × 文学 × 農学]	経済学研究科、 文学研究科 、農学研究科
	グローバルヘルス学際融合ユニット	[医学 × 農学 × 地域研究 × 地球環境学]	医学研究科、情報学研究科、工学研究科、 東南アジア研究所 、 地球環境学堂 、 アジア・アフリカ地域研究研究科 、 文学研究科
	アジア環太平洋研究ユニット	[地域研究 × 医学 × 経済学 × 文学]	東南アジア地域研究研究所 、 経済研究所 、 人文科学研究所 、 大学院総合生存学館 、 大学院法学研究科 、 大学院経済学研究科 、 大学院医学研究科 、 霊長類研究所 、 国際高等教育院
	アフリカ学際研究拠点推進ユニット	[地域研究 × 文学 × 理学 × 医学 × 工学]	文学研究科 、 理学研究科 、 工学研究科 、 人間・環境学研究科 、 アジア・アフリカ地域研究科 、 地球環境学堂 、 霊長類研究所 、 野生動物研究センター 、 アフリカ地域研究資料センター
	アカデミックデータ・イノベーションユニット	[情報学 × 文学]	文学研究科 、 理学研究科 、 医学研究科 、 情報学研究科 、 生存圏研究所 、 防災研究所 、 東南アジア地域研究研究所 、 学術情報メディアセンター 、 高等教育研究開発推進センター 、 総合博物館 、 大学文書館 、 京都大学研究連携基盤 、 情報環境機構 、 図書館機構 、 学術研究支援室
	アジア研究教育ユニット	[文学 × 経済学 × 農学 × 教育学]	文学部・文学研究科 、 経済学部・経済学研究科 、 経営管理大学院 、 アジア・アフリカ地域研究研究科 、 教育学部・教育学研究科 、 農学部・農学研究科 、 東南アジア研究所 、 人文科学研究所 、 国際高等教育院
	スマートエネルギーマネジメント研究ユニット	[工学 × エネルギー科学 × 情報学 × 経済学]	工学研究科、エネルギー科学研究科、エネルギー理工学研究所、 経済学研究科 、 情報学研究科 、 学術情報メディアセンター
	宇宙総合学研究ユニット	[工学 × 地球環境学 × 理学 × 農学 × 文学]	文学研究科 、 理学研究科 、 工学研究科 、 人間・環境学研究科 、 エネルギー科学研究科 、 アジア・アフリカ地域研究研究科 、 総合生存学館 、 生存圏研究所 、 防災研究所 、 基礎物理学研究所 、 総合博物館 、 こころの未来研究センター 、 白眉センター 、 学際融合教育研究推進センター 、 国際高等教育院

[人文系研究分野・部局](#)
[学際系研究分野・部局](#)
[自然科学系研究分野・部局](#)

		ユニットが設定した分野	関連部局
Unit	次世代研究創成ユニット	[あらゆる分野]	白眉センター、学術研究支援室、研究推進部
	Future Earth 研究推進ユニット	[地域研究×生態学×地球環境学×工学]	東南アジア研究所、生態学研究センター、地球環境学堂、情報学研究科、農学研究科、工学研究科、アジア・アフリカ地域研究研究科、フィールド科学教育研究センター、地域研究統合情報センター、こころの未来研究センター、防災研究所、生存圏研究所
	インフラシステムマネジメント研究拠点ユニット	[工学×防災×経営管理]	工学研究科、防災研究所、経営管理研究部
Light Unit	リプロダクティブ・ヘルス&ライツ ライトユニット	[医学×社会医学×社会科学]	池田裕美枝(医学部附属病院産婦人科、医局員、非常勤医)
	サイバー・デモクラシー・ライトユニット	[情報学×哲学×政治学]	坂出 健(公共政策大学院・経済学研究科、准教授)
	研究者越境マインド研究ライトユニット	[あらゆる分野]	井出和希(iPS細胞研究所 上廣倫理研究部門・特定助教)
	調和ある地球社会研究ライトユニット	[あらゆる分野]	浅利美鈴(地球環境学堂・准教授)
	芸術と科学リエゾンライトユニット	[情報学×文学×工学]	湊 丈俊(産官学連携本部、特定准教授)
	学研究成果の受け取られ方を考えるライトユニット	[あらゆる分野]	設楽成実(東南アジア地域研究研究所、助教)
	学問と社会をつなぐコミュニケーション探究ライトユニット	[社会科学×理学×文学]	清水智樹(総務部広報課国際広報室、特定職員)
	京大らしさ研究ライトユニット	[環境学×工学×文学]	酒井 敏(人間・環境学研究科、教授)
	《究極の選択》研究ライトユニット	[あらゆる分野]	大庭弘継(文学研究科・研究員)

学内ユニットから見る人社系を含む研究ユニットの傾向

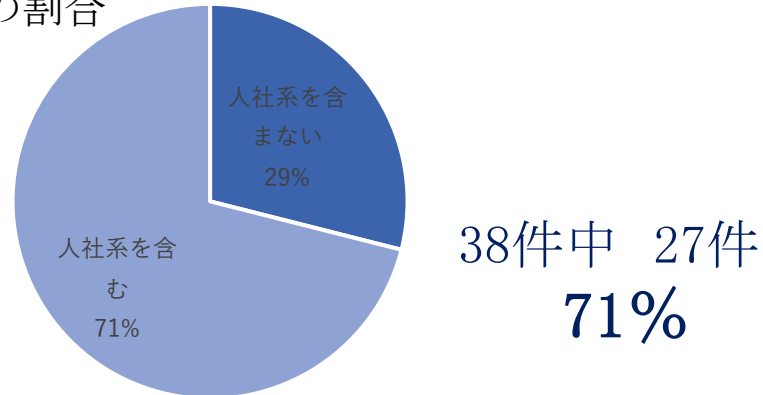
COE、リーディング大学院、SGU、COI、世界展開力等の部局横断型申請、活動を契機にユニット化されることが多い
SPIRITSを契機としたものもある

京大はもともと学際的分野の部局が多い

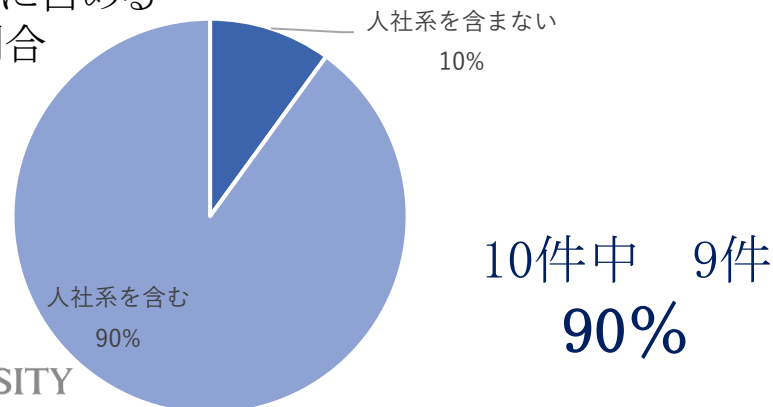
人文学よりも社会科学系のものが多い、また地域研究系が多い

ライトユニットは他大学のメンバー、研究者以外のメンバーも多く、研究の成果発信、インフラを考えるようなテーマが多い？

全体のユニットに占める
人社系関連ユニットの割合



全体のライト・ユニットに占める
人社系関連課題の割合



KYOTO UNIVERSITY

傾向

心理学、教育学

経済学、経営管理

地域研究

高齢化社会

防災、環境問題

SDGs、フューチャーアース

人工知能(AI)

データサイエンス

1. SPIRITS

2. 学内ユニット

3. 今後に向けて

(科学技術と社会の調和に向けた自然科学との連携・協働とその課題)

これまでも自然科学との連携・協働は複数の場において進められているが、そうした実践の場面においては、経験的にいくつかの困難が見出されている。

例えば、連携や協働という本来手段であるはずの事柄それ自体が目的化してしまうことや、連携・協働の組み合わせにより比較的解決しやすい問題に傾いて本来意図する研究のスケール感が失われることがあること、また、実際に問題が生じる場となる自然科学による問題設定が主導する形となって人文学・社会科学の研究者が自身の専門性との関連においてインセンティブを持ちにくいこと、などが挙げられる。

FROM

科学技術・学術審議会 学術分科会

人文・社会科学振興の在り方に関するワーキンググループ

「人文学・社会科学が先導する未来社会の共創に向けて」(審議のまとめ)(平成30年12月14日)

そもそも本来の目的や
解決すべき課題は何か？

Phase1

学際・文理融合に限らず幅を広げて考えてみる
(学術的成果のみに留まらないあり方)
産官学連携、地域連携、社会連携

共創研究

Phase2

現在や未来の社会的課題や
追求すべきテーマは何か
それに応じることのできる人社系研究は何か
探究・提示
(学際研究であること自体は目的ではない)

Phase3

次にチーム形成や
研究環境、
プラットフォーム作りを考える

「役に立つ」ということには二種類あって、既に与えられている目的に対して手段として役に立つだけがすべてではありません。こういう目的遂行的、あるいは手段的な有用性とは別に、価値を創造することで役に立つという次元があります。

手段的な有用性ということだけでは、与えられた目的が変わってしまえば、あるいは価値の軸が変わってしまったら、とたんに役に立たなくなるわけです。歴史の30年、50年、100年という長いスパンで考えてみれば、社会の目的や価値の軸というものは必ずドラスティックに転換していきます。

手段的な「役に立つ」ということの中からは、歴史の転換期に新しい社会の目的や価値の軸を創造することはけっして出てきません。

FROM

「大学はもう死んでいる？トップユニバーシティからの問題提起」
(2020年・集英社) 吉見俊哉先生の発言

工学系が目的に対する手段の学であるとするならば、
文系はむしろ価値そのものの学である
(目的遂行的＝手段的な有用性と価値創造的な有用性)

【オンライン公開講義】“立ち止まって、考える”

2020/06/30

#立ち止まって、考える

立ち止まって、 考える



京都大学
オンライン
公開講義

学びの機会をオンラインで共有するプログラム

人社未来形発信ユニットでは、本学人文社会科学分野の特別講義を、リアルタイム双方向授業として全世界にオンライン無料公開する講義シリーズ「京都大学オンライン公開講義 “立ち止まって、考える”」を2020年7月4日（土）より実施いたします。

本講義シリーズでは、コロナパンデミックに直接間接に関連する内容の特別講義を通じて、アフターコロナの社会を見据え、広く、深く考えるための視座を社会に提供します。

このシリーズでは、7月4日からの毎週土曜・日曜に、全11名の本学人文社会科学分野の教員が、それぞれ1時間程度のオンライン講義を行います。講義はYouTubeライブ、Twitterライブを通じてリアルタイム配信され、どなたでも申し込みなしに無料で視聴することができ、さらにコメントを通じて質疑応答に参加することもできます。複数回にわたって専門トピックを深掘りする連続講義と、コロナ後の社会への提言を各教員がストーリーに伝えるリレー講義を開講します。

FROM

京都大学人社未来形発信ユニット コロナパンデミック関連オンライン公開講座
<https://ukihss.cpier.kyoto-u.ac.jp/1669/>

講義の動画はYouTube上にアーカイブされ、リアルタイム配信後もいつでもご覧いただけます。以下の各講義の個別ページに順次掲載してまいります。

この講義シリーズについてのお問い合わせは人社未来形発信ユニット [ukihss\[at\]bun.kyoto-u.ac.jp](mailto:ukihss[at]bun.kyoto-u.ac.jp) までお願いいたします([at]をアットマークに変えてください)。

京都大学 講師紹介（シリーズ講義）		
講義タイトル	講師	
・哲学 自己とは何か？ 「われわれとしての自己」 とアフターコロナ	出口康夫 文学研究科教授	
・環境史 「災害」の環境史！ 科学技術社会とコロナ禍	瀬戸口明久 人文科学研究科准教授	
・倫理学 パンデミックの倫理学	児玉聡 文学研究科准教授	
・地域研究 メディア学	山本博之 東洋アジア地域研究 研究所准教授	

京都大学 講師紹介（リレー講義）		
講義	講師	
・人類学 人類・環境学 研究科教授	文化心理学 内田由紀子 こころの未来 研究センター教授	
・臨床心理学 河合雅雄 こころの未来 研究センター教授	公共政策 広野真典 こころの未来 研究センター教授	
・映画学 ミツロ・ワダ・ マサルシアーズ 文学研究科教授	現代社会論 佐伯雅彦 こころの未来 研究センター特任教授	
・認知神経科学 阿部崇士 こころの未来 研究所准教授		

COVID-19により潜在的にあった
様々な社会的課題が浮上
それに合わせて人社系研究も
先鋭化し、
社会的需要や要請が
増しているのでは？

新たな価値の創出と共創に向けて

提案する人文・社会科学

©京都大学人社未来形発信ユニット